

令和6年度 第2回 浜松中部学園運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年9月10日（火） 15時00分から16時30分まで
- 2 開催場所 浜松中部学園 会議室
- 3 出席委員 齋藤 正、村井 秀行、藤野 直也、三浦 一哲、神村 佳宏、鈴木 康子  
成瀬 仁代、鳥居 浩幸、広瀬 恵子、三ツ井 りか
- 4 欠席委員 木村 勝、大石 将和
- 5 学校支援コーディネーター 櫻井 康人
- 6 学 校 岡本 雅康（校長）、星宮 ちさと（教頭）、袴田 暁広（教頭）  
影山 直巳（主幹教諭）、井ノ口さおり（教務主任）、山下 夢乃（研修主任）  
井上 佐矢子（CSディレクター）
- 7 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 井上 佐矢子

10 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、藤野委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

下半期の浜松中部学園の方向性

「学校教育目標を達成するために、主体的に考えて選択する力を育むための教育活動を行ってきた。一つの例としてチャレンジ学習が挙げられるが、それだけではない。教育課程の様々な場面で実践しているのだが、方向性として間違っていないだろうか。また、さらに推進していくためにどんな手立てが考えられるだろうか。」

12 会議記録

司会から、委員総数12人のうち10人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

下半期の浜松中部学園の方向性

主幹教諭より、チャレンジ学習についての報告があった。

グループに分かれて「主体的に考えて選択する力を育てる教育活動」についてそれぞれの意見や考えを出し合い協議し、それを図解化してグループごとに発表した。

【Aグループ：村井委員、神村委員、鳥居委員、三ツ井委員、岡本校長、影山】

**成果** 自立する力、自分で考える力や積極性が育ってきた。夢中になって学習に取り組む姿も見られる。わが子の興味関心を共有できた。

**課題** 成果が見えにくいこと、偏りが出る場合もあること、大人側の不安

- ⇒そのための、大人のサポートも必要 ※時には待つことも大切
- ・オールマイティーでなく偏りがあってもよいという見方もある
  - ・興味関心によっては、地域人材を紹介してよりよい学びができるように「つなぐ」ことがあってもよい。

【B グループ：三浦委員、広瀬委員、櫻井コーディネーター、星宮教頭、井ノ口】

**成果** 学園のよさとは、9年生がリードして、低学年が育っていく。縦のつながり

- ・仲間を大切にすること
- ・意味や本質を考えながら、学習や活動に参加していること

**課題** 大人が関わりすぎている面もある。指示待ちになる。

独りよがりの考えや、周りのせいにして自分の課題に向き合えない場合には客観的な見方を伝ええていくことも大切

⇒だれが いつ、どのようなタイミングで、どのようにサポートするか  
見極めが大切

【C グループ：齋藤委員、成瀬委員、鈴木委員、袴田教頭、山下、井上】

**成果** 自主性が育っている。自立：考える楽しさ、学ぶ楽しさ、時間と心のゆとり

**課題** 家庭ごとの差、好きなことと嫌いなことの差への対応

適切に判断することが難しい児童生徒のためのサポートの在り方

⇒選択肢を示す、校内だけではなく、地域の方の話を聞く場をもつことで興味今後の方向：  
コミュニケーション能力の育成

外部とのつながりを増やす、子どもが楽しいと思える環境づくり

部体力づくり…30分体を動かすというチャレンジ学習も OK

- ・櫻井コーディネーターより活動報告
- ・鳥居委員より PTA の見守りボランティアの報告

その他報告事項等

司会から、次回会議は、2024年11月26日(火)午後2時から会議室で開催される旨の報告があった。